令和６年度　学校自己評価システムシート（県立松伏高等学校 ）

目指す学校像	学力の定着及び向上と、専門的な技術・能力の伸長を図るとともに、幅広い社会性を身につけさせ、地域に信頼され貢献できる人材を育成する。
重点目標	1　教育課程や学習指導計画及び授業の工夫・改善を進め、学ぶ意欲と学力を向上させる。 2　キャリア教育を進め、高い進路意識を育み、進路希望を実現できた生徒の割合を高める。 3　生徒会活動や学校行事の質を高め、部活動を活発化させる。 4　規律を重んじ、地域に信頼され貢献する教育活動を推進する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者　学校関係者　５名
生徒　３名
事務局(教職員)　１３名

学校自己評価

年度目標 ／ 年度評価（２月１日現在）

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	成績優良者も多くいる一方で、生徒の学習面での自己肯定感が低い。「Matsubushi Eight Policy」を学習習慣にも結び付け、生徒の意識を高めていく必要がある。 観点別評価については、今年度が導入３年目となるため、引き続き検証していく。 生徒一人一台端末の導入に伴い、ＩＣＴの活用方法について、さらに実践を積んでいかなければならない。	学ぶ習慣と意欲の育成	①各教科で予習、復習の指導を粘り強く続け、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ②基礎学力の定着が必要な生徒に基礎学力向上補習を実施する。また教務部と進路指導部の連携で進路補習を実施する。 ③図書館を更に利用しやすい施設とする。 ④特別委員会を中心に、各教科で評価方法や課題を検証し、職員全体が共通理解のもとで実施する。	①生徒が自習室や学習サポーターを活用するとともに、学習時間が増加したか。 ②進路補習の講座数、参加者数が増加したか。 ③図書館利用者、本の貸出数が増加したか。 ④評価の在り方や方法についての共通理解を深め、適切な評価を行えたか。	①学習サポーターは毎週１～２日数学の授業に入り、課題に取り組む生徒をサポートした。学習時間に増加は見られなかった。 ②１３講座延べ５８人受講した。昨年より講座数は減少したが延べ参加人数は１０名増えた。 ③本の貸出数は昨年度から微増だった。 ④観点別評価が適切だったかを検討した。また、教務部主体で観点別評価方法に関する教員研修会を実施した。	B	生徒の学習に対する意欲は二極化している。考査前でも家庭学習時間が１日３０分未満の生徒は１割以上いる。進学補習、指名補習は引き続き行っていきたいが、家庭学習の定着を図る手立てを、教科、学年、進路指導部、教務部を中心に考える必要がある。 観点別評価については、その理解を一層深めていけるよう引き続き取り組む。
		ＩＣＴスキルの向上	①ＩＣＴに係る研修会を引き続き行い、教員のＩＣＴ活用スキルの更なる向上を進める。	①研修会等で教員のＩＣＴ活用への意識やスキルの向上が進められたか。	①surface が全教員に配備され、ICT を活用した授業を行う教員が増えた。研修会は行えなかったが、その都度質問できる体制がある。	A	
2	スタディサプリを導入しているが、家庭学習習慣が定着していない。教科間、教員間で積極的な活用が必要である。 進路指導はきめ細かく取り組み、生徒一人一人の進路希望の実現に尽くしている。３年間を通して資格取得や進路活動に積極的に取り組める生徒を育てることが必要である。	進学・就職希望に応じた個別指導の充実	①進学希望に対応した補習を実施し、模擬試験を活用して、進学指導を行う。 ②スタディサプリを活用して、進路意識を育てる。 ③就職希望者に適時な情報を提供するため、ハローワークや民間企業との連携、ＩＣＴ機器を活用する。	①補習内容の充実、補習参加者は増えたか。 ②活用により、生徒の進路意識は向上したか。 ③就職希望者の内定率 100%を引き続き達成することができたか。	①考査前には指名補習を実施し、欠点が付きそうな生徒のフォローをおこなった。 ②スタディサプリを昨年よりは多く活用した。また、生徒の進路意識も高まり、「ＨＡＮＤＹ進路指導室」を効率よく活用することができた。 ③就職希望者の内定率 100%を引き続き達成した。	A	生徒一人一人にきめ細やかな進路指導はできているが、生徒自身の意欲がまだ低い。進路決定だけでなくその先のためにも学習する必要性があるのを考えられない生徒が一定数いる。教科、学年を中心に、次年度以降も導入するスタディサプリの活用を定着させたり、補習等を行ったり、生徒の学習意欲を高めていかなければならない。
		各種検定や高度な資格取得の更なる推進	①情報ビジネスコースでの系統的な取組に加え、普通科の生徒にも積極的に資格取得に取り組ませる。	①資格取得に取り組む生徒数は増加したか。	①情報ビジネスコースでは上位級に多数合格者が出すことができた。しかし、他の検定では受験者数が足りず実施できないこともあった。	A	
3	生徒会生徒中心に、生徒主体の学校行事が多くなってきている。今後は計画的に、かつ精選して活動していくことが課題である。 部活動では、積極的に活動する生徒が減っていく中で、各部が活動の軸をしっかり考え、発信していく必要がある。	生徒会を中心とした生徒の主体性の伸長	①生徒会や委員会等の生徒を中心に、主体性を大切にしながら学校行事を作りあげる。 ②生徒会を中心に、分校との交流を増やす。	①生徒会本部役員を中心とし、行事を計画的に、かつ精選して自発的な活動ができたか。 ②分校との交流機会が増えたか。	①文化祭は一般公開し、1,269 名の来場があった。生徒会生徒が動画を作成し、全ての学校説明会で学校紹介を行った。 ②分校との交流は昨年と同様に行った。	A	生徒会生徒は行事や交流で活躍している。しかし、その他の生徒には広がっていない。生徒会発信で、多くの生徒を巻き込んでいくことが今後の学校活性化の課題である。 部活動は運動部に入部する生徒数も減り、中途退部も増え、活性化は課題である。
		部活動の活性化	①部活動を県の方針に従い、計画的に実施する。 ②各部活動が活動の様子をＨＰで情報発信する。	①各顧問が、予定と実施を計画的に行えたか。 ②部活動のHPを活用して、活動報告が行えたか。	①部活動は、計画的に県の方針に従って実施できた。 ②決まった部活動ではあったが、こまめにＨＰで試合の結果等を発信した。	B	
4	交通マナーについては、自分事として真剣に捉える指導が必要である。 生徒のコミュニケーション能力不足から起こる生活の躓きをなくすために、他者を思いやる心を育てていく必要がある。 地域連携については、長年の連携を大切にし、今後も本校の教育活動の魅力を発信することで、地域に発信される学校づくりを推進する。	規範意識の育成と安全教育の推進	①交通マナーの大切さを理解させるために、きめ細かく粘り強く指導する。 ②交通安全教室の実施やＰＴＡと連携した交通安全指導を実施する。 ③いじめ等がないか早期発見するために、学校生活アンケートを毎学期実施する。	①交通マナーへの意識は高まったか。 ②交通事故件数が減少したか。 ③アンケートの実施から、早期発見と予防が図れたか。	①始業式・終業式で交通ルール・マナーについての講話をしているが、地域からの苦情は減らない。 ②交通事故は昨年同様の７件。 ③学校生活アンケートを毎学期行った。いじめ等がないかの早期発見と予防に役立った。	B	交通ルール・マナーを守り、地域住民に迷惑を掛けないことは当然であり、さらに安全に登下校する指導を続けていく。 いじめに関しては、引き続き学期に１回学校生活アンケートを実施し、生徒一人一人の悩みを把握していく。 地域連携、学校の情報発信等は生徒募集にも繋がることから、さらに継続した取り組みを行っていく。
		地域貢献と情報発信	①松伏町を中心に地域との連携を積極的に行い、地域貢献を通じて本校に対する理解を一層深める。 ②ＨＰの担当チームを作り、更新を増やし、保護者や中学生、地域の方々に情報を発信する。	①松伏町等が推進する事業を通じて地域・保護者との連携を推進できたか。 ②ＨＰの更新回数や、更新内容を拡大し、本校の魅力を広く伝えることができたか。	①松伏町人権セミナーへＰＴＡが参加した。また、音楽科や合唱部の演奏会に町や自治体からの広報活動の協力があった。赤い羽根募金に生徒会が参加した。 ②ＨＰだけでなく、インスタグラムを立ち上げて発信した。	A	

学校関係者評価

実施日　令和７年２月３日

学校関係者からの意見・要望・評価等

自習室の設置、学習サポーターの活用等、生徒の学習意欲を高めようとしているのがわかる。また、生徒一人一人の学習意欲、将来の夢、進路を考え、日々、先生方が努力していることはすばらしい。素直な心を持っている生徒が多い。自己肯定感をもっと強く持ち、自分の母校を大切に思って欲しい。

ＩＣＴは、小・中学校での利用が進んでいる。高校はぜひその先に進んでもらいたい。また、ＩＣＴ活用について学校のビジョンを明確にし、生徒に対して「考える力」を養ってほしい。

補習の１３講座の開設は大変だが、生徒のべ人数が少なく、もったいない。参加を促す手段を考える必要がある。苦手な科目については、スタディサプリ等を利用した取組につながってくれればよい。

就職１００％はすごい。松伏高校のアピールポイントとなる。また、進学に気持ちが向くと、学習意欲が更に高まるのではないか。

生徒会が一生懸命活動している。教員の陰の力が必要だが、自分たちの意見をより反映させた行事の取組が増えてくると良い。行事に対する熱意は大事なことであり、更に生徒全体が１つの目標を持って取り組んで欲しい。

部活動は中学校でも加入人数が減少している。中・高で上手く連携していくと、次の１歩が出てくるかもしれない。

交通事故には気を付けてほしい。ルールを守る指導を徹底してほしい。注意喚起は日常的に行う方が意識定着には効果があると思う。被害者にも加害者にもならないようにしてほしい。学校前の横断歩道は、多くの生徒が軽く会釈をして小走りで渡っている。とてもきちんとしている。

コミュニケーション能力不足は社会全体、更に小学校のうちから身に付ける必要がある。また、直接話すのではなく LINE に頼る等、スマホ依存も原因なのではないか。

「音楽の町　松伏」の中心となって、地域貢献に協力してほしい。